

五十年の歩み

◎ 真庭木材市売株式会社

ごあいさつ



真庭木材市売株式会社

代表取締役 山下 薫

やわらかな陽ざしを快く感じる本日ここに、真庭木材市売株式会社創立50周年を迎えることができますのも、行政や木材業界はじめ出荷者、買方の皆様また株主や関係各位のご尽力ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

さて当社は昭和35年4月に原木市場の必要性を痛切に感じた故山下忠雄氏をはじめとする真庭地区の20代、30代の若手が結集して、設立発起人会からわずか一ヶ月で会社を立ち上げスタートしました。今では考えられない速さで、当時の若手の行動力と決断力には心より敬意を表するものです。以来50年間「信用、情熱、潔白」を経営理念とし、地域社会や木材業界への奉仕を使命として社業に励み多くの皆様の信頼を得て今日に至っております。また、いち早くフオークリフトを導入したり、土場のアスファルト舗装、丸太選別機の設定、バックフォア（原木仕分け機）の導入など他市場より常に先んじて対応し、仕

事の合理化やお客様のサービスに努めて参りました。しかし決して順風満帆に來たわけではなく取引先の倒産等による不良債権の発生や不景気により苦渋の判断によるリストラ、外材や集成材等との競合により相場が下落し売り上げが大きくダウンするなど色々な困難に直面してきました。

今も昔も木材業界の現状を語るのに「大変厳しい状況である」というフレーズがいつも使われてきました。しかし常に時代の流れに対応し乗り越えてきています。また新しい政権になり国産材自給率50%目標、相続税の非課税率枠の拡大、温室効果ガス25%削減目標における森林の再評価等追い風が吹いているのも事実です。こうした中、当社も今まで築き上げてきた信用をより深め、お客様への奉仕と感謝を忘れることなく、業界の扇の要としての立場を十分果たしていくとともに、他産業と同じように日々大きく変化していく木材業界の流れに逆らうことなく順応しながら地域木材産業の発展に貢献しなければならなと思っています。その為には創立時の目的、基本を忘れることなく役員一同、一致団結して社業に邁進していく覚悟でございます。皆様におかれましては今までと変わりなく、自分の市場だと思っていだきご遠慮なくご利用していただくと同時にご指導ご援助をお願いできれば幸いです。

最後になりましたが関係各位の皆様のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。平

平成二十二年四月十七日

会社（業界）の五十年を語る

出席者

銘建工業株式会社

相談役 中島道夫

矢野木材株式会社

代表取締役 矢野勝三

真庭木材市売株式会社

代表取締役 山下薫

//

常勤顧問 吉永純三郎

有限会社山陽木材新聞社

代表取締役 河島一郎（文責）

目次

1	社長挨拶	
2	会社（業界）の50年を語る	1
3	真庭の木材産業の推移（故 山下忠雄会長）	7
4	写真と新聞で見る市売（会社）の半世紀	9
5	全期の取扱高、単価推移一覧表（グラフ）	40
6	出荷者上位一覧表（昭和56年以降）	42
7	買上者上位一覧表（昭和56年以降）	44
8	歴代役員（任期）一覧表	46
9	旧職員名簿（勤続10年以上）	48
10	会社の概要	49
11	第50期貸借対照表	50
12	第1期貸借対照表	51
13	現、役職員名簿	52
14	現、株主名簿	54



吉永

中島

山下

矢野



山下

会社創立50周年を迎えるにあたり記念事業を考へておりましたところ、設立当初の様子をご存じの中島、矢野ご両氏に座談会形式でお話を伺えたらという思いに至り、今回の様な席を設けさせていただきました。この50年間いろんな事があつたかと思いますが、ざつとばらんにお話いただければと思います。宜しくお願いいたします。

吉永

中島

矢野

中島
矢野

吉永
中島

亡くなった山下忠雄会長(以下会長)から折に触れ聞いておりますが、当時の状況、真庭木材市売設立のいきさつ等について
真庭には、まだ市場がなかったので、新見の市場に原木を買いに行っていたが、帰りの汽車の中でいろいろと矢野さんと情報交換していた。朝早くから夜暗くなるまでカンテラを下げて買い付けをしていたのを思い出す。
津山地区には、院林の工場の辺りに原木市場の苦津原木共販などがあった。
当時、勝市も少しの原木を集荷していたが・・・新見や津山、美作にあった原木市場を真庭にも創り、ここに丸太を集荷しなければという意見が出てきた。
当時、製材所は山に行つて立木を買ってくるものだという認識だった。市で丸太を買つて製材して市で製品を売って、採算が合うわけではないというのが定説になっていた。木を人から買うという認識がなかった。
昭和28年に勝市ができていたが
河本さんは事業として製品市場を興したが背景に、山という資産を潤沢に持っていたのがある。
勝市ができて、5年〜10年間に真庭の製材所の基礎ができた。

会長もそういう状況の中で会社を立ち上げようと思つたのではないか・・・

矢野

中島

吉永

矢野

吉永

会長が言っていたのに「真庭を通り過ぎて木がどんどん津山へ行く。ここで止めないといけない。製材所は山での仕入れが大変難しくなつて、今のままでは立ちいかなくなってしまう。原木市場を創らないと」津山の清水さんが、真庭に来て製材所らしいものができた。津山のほうが、大きい製材所がいくつもあつて進んでいた。10年ほど津山には遅れていたように思う。自分で山を買える力のある人が、真庭にはほとんどいなかった。
会社のスタートは昭和35年3月9日に発起人会、そして3月28日に設立総会、そして半月後の4月13日に初市を開催している。誠に超特急の発足だ。丸太を積んで津山に行く車を全部止めて「ここで初市をするからここで降ろしてくれ」。親方には後から了解をもらうから。」といい、強引に集荷したとか。初市は950石、250万円の売り上げであつた。
会社設立にあたり関係者に了承を得てとりあえず、7人の発起人を集めた。会社の定款も津山の会社のものを参考にするなどバタバタしたのを覚えている。
私は、36年2月の入社ですが、当時は、毎週常務会があり38年は67回、39年は58回開いている。意見が合わず、よく衝突していて、37年には社長排斥の動きもあり大変な一時期がありました。結束を図るために、常務会の後は昼間から度々久世の町で飲んで評判となつていた。経理も杜撰だったため、総会でなかなか承認されないこともあつた。常時資金不足が続いたが、銀行も協力的で当座が赤字でも「今日中には、入金するから払い出しを頼む」という、今では考えられない申し出も通つていた。本当に2、3年は大変だった。
矢野さんが一年で常務職を退いているのは。

矢野 常務会がよく意見が合わず対立していたという記憶がある。そういう常務会をよく会長はまとめた。人心の掌握術に長けていたということだと思ふ。

吉永 会長のお父さんが1月に亡くなって、4月には市場を設立したということは、強い精神力と実行力によるものだと思う。山が買えなかったことが辛かったという実体験から『何が何でも市場を創らなくては』という思いを強くしたのだろう。

当社が設立された年に美作木青会も発足しているが。



中島

中島 初代会長の武本平八郎さんが、なんだかんと言つても引つ張り役で「何でも日本」だと言つていた。どこに行つても。僕は誰

が来ても怖くはなかったけど、平ちゃんだけは、怖かつたなあ。

吉永 昭和38年、常務取締役の池田富治氏が真庭興産を興して市場内に事務所を設け、岡山合同市場内に浜を持つていた。43年に市場を離れたが、真庭興産の仕事が真庭市売の仕事から分らない時期もあった。そういうバックボーンがあつたので、美作木青とかJCM木材部会が結束したのは・・・転換期にはなつたと思う。

中島 昭和39年9月、月田支店を開設して、やっと会社としての機能が發揮したけど、月田の製材所から全体的な協力をもらうのには時間がかかつた。

吉永 基本的な考え方で相違していたような・・・月田支店ができたことで月田地区の団結にはなつたと思う。月田のためにいいようになればいつも思つていた。

中島 ほんとに月田にはたくさん工場があつたので、月田支店の開設が真庭

矢野



矢野

矢野 材を求めて境港へカラ松を買い付けに行つたことも。実現しなかつたが西大寺の水門に貯木場を拵えるために土地を見に行つたこともあつた。

中島 採算は合わないが丸太が足りなくてどうしようもなく外材に頼るしかない時期だつたと思う。相対的に採算は合わない。

当時堀建さんなどは、アカマツでマスカットの箱を作つていた。アカマツが手に入らなくなるし、北洋材で作る会社が現れるので、また杉松に帰つてきた。みんな右往左往しておつた。

吉永 この頃キタカタが倒産しますが・・・

中島 キタカタが主要な取引先だったので、被害を食い止めようと、いろいろと手を尽くした。

矢野 キタカタの中に真庭浜もあつたし、福山にも浜があつたので、トラックで急いで製品を引き取りに行つた。今から思うと、あの頃が一つの大きな混乱期だつた。

吉永 47年11月から木材価格の急騰がはじまり、山を買いさえすれば必ず儲かつた。

平均単価が46年、2万3千円、47年、3万3千円、48年4万4千円という風に。

矢野 市場も立木部門での利益もあつて、出荷者・買上者に特別歩戻し(約1,000万円)をし、そして三朝、皆生、沖縄海洋博にも招待するなどお得意先にその利益を還元した。屋ごはんを食べたら、午後からまた相場が上がつてたという時期だつた。

が一つになれた起因では・・・。

吉永 昭和41年、借用していた山下家共有の土地(約1500坪)を格安で譲り受けた。後に富尾に移転してからの不況期に処分し、多額の譲渡益が出て大変助かつた。

そのころ県森連勝山共販所の開設の話が出てきた。

地元県議にも掛け合つて止めてくれという陳情に行つたことも・・・。

矢野 いい意味で、業界の大きな流れの中で分業化し始めた時期なのでは？市場同士で、寸検の仕方、仕分けの仕方など統一させないといけないという提案をしてきた。

吉永 その後、買方組合・出荷者組合ができ、個人個人から来ていた要望がそれぞれの組合からのものに変わりその対応に追われた。

矢野 買方組合長になつた時、組合員の要望を真庭市売に伝える役目をしたが。昭和49年には買方組合員以外の者は立会できないことについて

中島 広島の公正取引委員会に呼ばれ改善を指導されたのを思い出す。

中島 その頃、国有林の山が出てくるようになって忙しくなり始める時期でもあつたなあ。

吉永 昭和43年には会長が久世町議会に立候補をとの話に、身内を始め私もその性格からすると議員間でいさかい等は必至だと大反対でした

中島 が18年間見事に勤めあげた。(副議長を6年、議長を4年)

矢野 昭和42年に内地材だけではだめだろうと外材を扱う様に。

中島 結局は、商社の言いなり、支払いサイトは長かつた。

矢野 昭和43年、真庭木材産業を創つて市場で共同購入してもらい、外材を挽くようになった。

吉永 昭和54年度、6億1千万余の取り扱いがピークで57年度まで取扱いをしたが。仕入れは主にキタカタや大三からしていた。

吉永 時を同じくして、公害問題が浮上してきて、久世木材協同組合を立ち上げ、焼却炉を作つた。

山下 それまでは焼却はどうしていたのか。月田など河原で、てんでに焼いていたのでは・・・

中島 久世木材協同組合での公害対策には難儀した。

矢野 うちでは、時々叱られながら、そこら中から煙をだしていたので、工場の敷地内で焼けばええがな、という意見も出てきた。焼却しているものから発電できると思ひ立ち、小さい設備でチヨロチヨロしつたものが、後の大きい発電施設に繋がつたと思う。

中島 集成材を始めたのは昭和45年。製材と集成材を同じ工場をやつていた。「売り上げが半分になつてもええから製材はやめよう」そのうち売れるからと思つて46年、47年と我慢した。安東が営業に行つてくるといつてトラックの荷台に積んで富山に行つたが、買つてくれたのは使うのではなく集成材の研究材料としてのものだった。始めて4年から5年は、誰でも大難儀する。

吉永 元本社は国道を挟んで行き来していたので、49年に久世町の世話で目本地区へ移転する話が浮上したが、現在地を全部処分しても多額の資金が必要なことから役員会で反対された。

中島 うちでも落合なら坪1、500円で土地が買えると言われたこともある。移転しなかつたのが良かったのか悪かつたのか・・・

吉永 その後、移転問題は立ち消えになつていったが、昭和54年12月になつて急に話が進み、土地の譲り受け・借り上げも順調にいつて、55年の夏に現在地に全面移転を完了した。

矢野 焼却場の建設も月田支店が開設したのも富尾にスムーズに移転できたのも皆に協力してもらえたからだ。

これらの事業が順調にいつたのは会長の人格、実行力に加えて強い運



吉永

吉永

が付き纏っていたからだと思う。

富尾移転を機に景気がガタつと悪くなった。

56年からは、土地を売って食いつないだ。

58年には、9名人員削減している。56年から59年は経常赤字続き。58年は赤字決算になった唯一の年度となった。

第二次オイルショック後の昭和55年からずつと悪かったが、61年頃

から少しずつ良くなった。

何はともあれ不用の土地があつたのでよかった。

落合の谷本さんは国道南側の土地を3回に分けて高値で買ってくれたし(坪19万)、創価学会は貸していた土地を買い取ってくれた。(坪26万)

37年にフォークリフトを買ったのも土場をアスファルト舗装したのも

原木市場としては当社が先駆け。徳島ゲンボク市場が使用していたパワースイッチを平成2年に全国で2番目に導入、大分の市場に倣ってコンピューターも入れた。

昭和52年に落合流通センターができていますが、当社と同じ経営体質だったのでサービスとか比べられることが多かった。

出発点が悪かったように思う。高値売り競争で、曲がった木も真っ直ぐに見せていた。高く買われた。

あそこから、曲がった木を真っ直ぐに見せる方法が広まった。

出荷者が当社とダブっていたんで、いろいろと大変だった。

木のことが分かる人間がおらんといけん。風がわからんといけん。吹く前に風が吹くときは、誰でも分かる。

落合流通はあつさりやめた。

昭和55年までに9回の増資をしてきたが、昭和38年の株主名簿を見ると111名のうち現在健在な人は18名だ。

会長の行動力と説得力で、やってきたことは月田第3土場にしてみ

吉永

酒井さんに工場を第3土場に移転してもらいたいとお願いしたこともあったが。

最近全国的に山から直接製材工場にという流れができており、原木市場は不要になってくるのではという危惧もありますが・・・

補助金で真庭に施設を作らなかつたというのは良かったかも。全国的に見ても補助金に頼った工場はうまくいっていないことが多いようだ。

真庭木協でほとんど対応できている。

こうい時代だからこそ市場の存在価値が上がってくるのでは。

市場と製材所が持ちつ持たれつ関係で、この地域だからこそ小さなことでも対応できている。当地域では素材生産業者の平均年齢が日本一若い。今でも新規参入してくる人もいます。

これが、真庭の強み。何も知らん若いもんがやるのが力だ。

真庭の製材所に頑張つて貰わないと。

喜びや楽しみがなかつたら、よい仕事というものはできるものではない。会社の50年を振り返ると、会長の素晴らしい経営手腕に加え20代、30代の若い力によつて今日があると思う。そして同時期に結成された

美作木青が果たした役割も大きかった。今後も真庭木青と共に若い人に期待したい。

長時間にわたり大変ありがとうございました。会長からも設立当時の話はいろいろと聞いていたつもりでしたが、今日こうして先輩方の話を聞きますと、改めて設立時のみんなの思いだとか行動力に感心させられます。今後50年間続いてきた歴史を将来につないでいくために

気を引き締めていかねばとつくづく感じています。これからも変わらぬご指導、ご鞭撻よろしくお願いいたします。

遺稿

真庭の木材産業の推移

◆50年前の真庭の木材業界

日本は第2次世界大戦に破れ、国土は廃墟と化し、食料のみならず全てのものが不足し、今のアフガン難民の姿そのままでした。昭和25年、朝鮮戦争が起き、米軍の特需がでて、日本はやつと活気を取り戻しました。

木材もこのころから需要が急速に拡大し、価格が日々値上がりして立木を高値で仕入れても、伐採搬出するまでに丸太の値上がりで、結果的には十分採算がとれる状況が続きました。

当時、真庭郡には60社(個人を含む)位の製材工場があり、規模は小さくても立木仕入れから原木生産をして製品も直売が普通でした。

◆製品市場の設立

昭和28年、勝山町の若手製材業者が中心で勝山木材市場を設立、製品の市売りを始めました。産地での製品市場は全国でも初めてで広く注目を集め、従来の直売が市売りにて大きな変化をもたらしました。このときの役員は河本政孝氏29才、中島道夫氏28才、その他も若い人達でした。

この様な状況下にあつても、製材工場は依然として立木での仕入れが続いておりましたが、その買い付けが思うようになくなり、ついに津山地区に原木市場が2社設立されました。真庭、新見地区にも設立の要望が出始めるようになりました。

◆原木市場の設立

昭和35年3月9日、久世町内の若者3名で市場設立を計画、翌日より、製材、素材業者に協力を要請する一方、市場用地の買収、事務所の建設等々準備を進め、3月28日、真庭酒造会館に60名の株主が集まり創立総会を開催し、社名を真庭木材市売(株)と決定、資本金150万円、社長山下忠雄34才、専務小林弘治27才、常務花谷治政32才、矢野勝三28才、篠正雄32才ほか10名、計15名の若者の役員でスタートしました。

役員会で取引銀行を中国銀行に決めましたが、取引はするが融資はしないとの回答で慌てた事もありました。原因はメンバーの親たちが若者の行動を心配して「長うて一年、早けりや半年」と言つて金を貸しても責任は持たぬと銀行に言つていたからでした。スムーズに発足したように見えますが、当初は多事多難の毎日でした。

◆美作木材青年経営者協議会の設立

半年後、岡山県市場連盟に於いて当時、津山の苦津木材協同組合の武本理事長と出席したとき、武本君より美作地区の若い経営者の会を作り、美作を西日本の木材産地にできないだろうかと言及があり、津山、真庭それぞれ10人を集めて発足することを約束しました。

それから一カ月後の11月、津山市の料亭白水で発会式を行い、名称を「美作木材青年経営者協議会」とし、会長に武本平八郎氏(28才)を選出してスタートしました。

当時は美作産の優良ひのき原木は津山口、勝山駅等から奈良県に貨車積みで移出されており、それが「吉野産のひのき」に变身して高価で売られておりました。翌年春、西日本の木材産地奈良県の桜井を視察、現地で会議を開き「美作産の杉檜」を銘柄化しようと決定、早速津山市院庄に「美作産の杉檜」の大きな看板を掲げました。また損得抜きで勝山、津山、姫路、大阪、名古屋、東京の各市場で美作産材の展示即売会を開催しPRに努めました。また製品の品質の向上、生産コストの引き下げ、従業員の待遇改善等、先進地に負けない体制づくりに努めた結果、勝山、津山の駅から檜原木の貨車積み姿が消えました。

◆木材業界の近代化

美作木青会で各地の視察研究の結果、真庭木材市場では運搬機(リフト)導入と市売り土場の全面舗装を全国に先駆けて行いました。

昭和39年、勝山町に真庭木材市売の月田木材市場を、41年には県森連勝山共販所が開設、また中島製材(銘建工業)が集成材の開発に取り組み一方、

多くの製材工場が市街地から郊外への新設移転が続きました。またフォークリフトの導入を始め、土場の舗装、新型機械の導入、安全施設の整備等々、大規模な改善を各製材工場が競って設備の近代化に努め、当時としては日本の最先端を行くまでになりました。

一方、時代の波に乗れない工場の廃業、破産等も続き、この間に工場数は半減しましたが、地域の木材生産量は倍増しました。

そして「美作産の杉檜」の名が広く全国に知られるようになり、木青会創立時夢に描いた通り、西日本一の木材産地として認知されるまでに成長いたしました。

◆森林林業の変化と県外からの視察

木材産業の活性化は立木の価格に跳ね返り、植林熱が急速に高まり、広葉樹等の自然林を伐採し、杉檜を地味も所もかまわず植林しました。国に於いても拡大造林を奨励し、所有の公私を問わず植林が進んだのもこの時期でした。

一方、美作地区の飛躍的發展は内外の注目を浴び、県外の補助事業に取り組む各団体の視察がひっきりなしに続く状況でありました。結果的には補助金による大規模工場、市場が西日本全体に建設され当地区の製品販売や原木仕入れのライバルになっていくという皮肉な状況になっております。

◆真庭地区の今

15年前にはトップレベルまで発展した真庭でしたが、国の木材産業発展策として各種補助制度を設け、林業、製材工業の活性化が図られる中、行政が細分化した当地では町村の意見が合わず、これらの事業に殆んど取り組みませんでした。

一方、市制の敷かれた近畿、四国、九州の各地区に於いては、数十億円と言う多額の補助金により、大型近代化工場が数多く建設され、みまさかの木材業界の大きなライバルとして活躍しております。

ただ有難いことには「美作材」の銘柄が生きており、長年の努力が固定客として、遠方から買いに来て頂き、又、遠方に出荷した「美作材」を愛用していただいております。これが「美作産」の信用であり地域の宝でもあります。

◆厳しい環境問題に対応を

前期の植林ブームは去り、現在では木材価格の低迷と後継者不足もあって放置状態の植林が増加しつつあります。この状態が続けば森林の崩壊、渇水と水害の問題も生じます。

間伐等、手入れさえすれば植林は宝の山です。植林は何十年単位で考えるもので、今日安くとも10年先も安いとは限りません。膨大な国の借金は必ず円相場の暴落を招く日が来ます。そのときが国産材時代の始まりです。林業関係者の皆様は将来に夢を託し、間伐、手入れに精進されることを期待いたします。

一方、木材焼却が問題になっております。廃掃法は当時の法律である反面、こと国産材に関しては、自然の木の素晴らしさを無視した面があるかと思えます。しかし、木材は貴重な燃料であるばかりでなく、煙も灰も人類にとっては大切なものです。この法のもと、木材の優れた特性を再確認し、木材を業とするものは全知全能を発揮し、損得よりも木の命を活かす心がけで取り組むことが必要です。

◆今後の課題

業界が一丸となって、折角築いた「美作材」の銘柄を大切にしてい、それが製品の品質の向上、コストの削減、安定供給に努める必要があります。一方、一日も早く町村合併による地域の一体化が図られる事を期待し、官民一体となって地域森林林業、木材産業の一層の近代化に努め、再び美作地域が西日本のトップの座に返り咲くよう頑張ります。

◆終わりに

今77才を目前にしております。この長い間のご指導、ご厚情、ご愛顧を賜りました数限りない多くの皆様様に心より感謝と御礼を申し上げ、私の体験した真庭の森林林業、木材産業の推移を思い出しながら記してみました。

平成14年11月18日

真庭地区木材組合
理事長 山下忠雄

写真と新聞で見る

市売(会社)の半世紀

昭和39年
昭和43年



⑦ (初回) 県木連主催全国優良木材展示会 (S41.11.10)



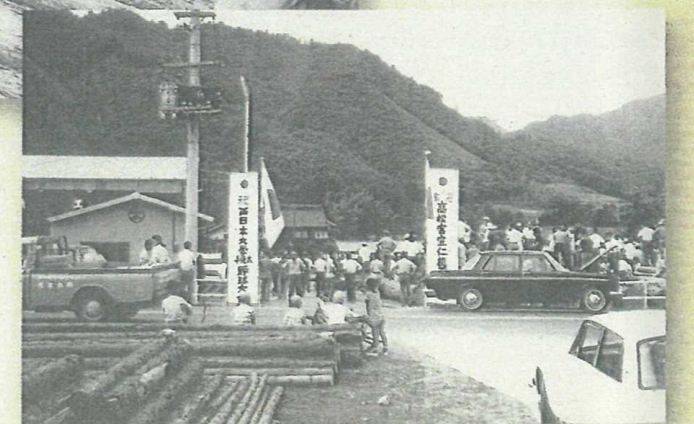
⑧ 高松宮殿下御視察記念碑除幕式記念市 (S43.4.25)



⑤ 月田支店開設記念市 (S39.9.21)



⑥ 高松宮殿下御視察記念市 (S41.7.16)



主な出来事

◆昭和39年
9月20日 増資
(新資本金1、
500万円)
9月21日 月田
支店開設記念市
(写真⑤)

東京オリンピック

東海道新幹線東
京大阪間開業

◆昭和40年
戦後初の赤字国
債発行

◆昭和41年
7月16日 高松
宮殿下御視察記
念市 (写真⑥)

11月10日 (初回)
県木連主催全国
優良木材展示会
(写真⑦)

◎岡山県森連勝
山共販所開設
◎真庭原木買方
組合発足

全日空機羽田沖
墜落等、航空機
事故多発。四件
で死者総数37名

◆昭和42年
8月3日 外材
原木展示即売会

◎真庭木材出荷
組合発足

中東戦争勃発

◎岡山県北木材
市場連盟結成

◎山下忠雄社長
アメリカ、カナ
ダ林業視察(2
週間)

◆昭和43年
4月25日 高松
宮殿下御視察記
念碑除幕式記念
市 (写真⑧)

◎真庭木材産業
協同組合設立

◎山下忠雄社長
久世議会議員当
選

三億円強奪事件

山陽木材新聞

発行所 山陽木材新聞社
岡山市錦町1の8
振替 岡山6595
郵便番号 700
編集人 河島温郎
電話 5871
夜間福渡 0304
購読料 年間3,000円

建材から住まい
まで躍進する—

永大

高級合板建材

永大の新床板

ひま

永大産業株式会社
大阪市住吉区平林南之町33

好調で午後四時頃全量を売り切り盛況裡に終了した。当日の売上げは三千七百六十余万円と開催前には関係者も予想しなかった数字が計上され、主催者の出荷組合も後援の真庭木材市売も終始ニコニコ顔であった。

優良木材展示即売会盛況

真庭木材出荷組合主催

三千七百六十余万円

参加して盛大に開催され、ご参集を頂き感謝します。われわれ林業者も人件費のアップ、伐採従事者の老令化など労務対策には非常に苦勞している。今後一層のご指導とご引立をお願い致します」とあいさつがあり、次に買手者を代表して矢野勝三氏(真庭原木買方組合清水政雄組合長代理)から「優良木材の松、杉を多量に出品され、感謝している。現在は過剰時代といわれているが、不足の品はやはり不足しており(内地材の優良松原木など)今回の催しは非常に有意義であり盛況を期待している」と祝辞が



挨拶する菅原理事長

既報のとおり真庭木材出荷組合(理事長菅原幸一氏)組合員五十七名)主催の優良木材展示即売会は、一月二十九日真庭木材市売(岡山県真庭郡久世町久世社長山下忠雄氏)の後援により同市の原木土場に美作産の優良松、杉、松など多量に集荷、多数の買手が集荷でき、多数の買手者の



真庭木材出荷組合の役員の一部



展示即売会風景

なお来る四月十八日は同木材市売の開設十周年記念特市が開催され、真庭木材出荷組合が全面的に後援、当日の盛況が今から期待されている。

⑨第1回真庭木材出荷組合記念市 (S45.1.29)

創業十周年記念 優良木材展示会

五千五百万円を売り盛況

真庭木材市売(株) 〓



山下社長

張り、当真庭地方の基幹産業である木材業界の発展に全力をつくす所存です。今後一層のご厚情をお願い致します。……とあいさつ、続いて高松買方、出荷者と親友会(同市場の贈答者の会)で地元(岡山県)に対して山下社長からそれぞれ感謝状が贈られた。

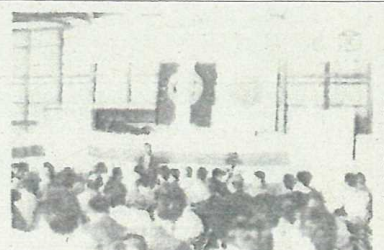
次に同市場永年勤続従業員(十年)八名に対し表彰状の贈呈があり、来賓の祝辞が島越真庭木協理理事長、勝山農林事務所長、清水政雄買方組合長、菅原幸一出荷組合長から贈られた。

続いて加藤知事などからの祝電披露があり、同市場の祝電披露を終り、抽せんによる即売を再開したが、多量の原木も百名以上の買手者に買いさられ、杉丸太10%高、松丸太5%高の好値で、午後四時半全量売り切った盛況裡

に展示会を終了した。当日の出荷原木のうち特に注目を引いたものに御津郡御津町虎倉、黒田林業出荷の天然松丸太五・二寸×五四寸が立方計当り二十五万円や杉柱口三寸、立方計当り三万一千八百円、同中目元木四万三千円、松三寸柱口七万四千円などがあり、当日の総売上げは約五千五百万円で、これは昨年の九周年記念特市の三千五百万円を大きく上廻り、開市以来最高の金額であった。

なお同木材市場本社の土場北側には美作木材青年経営者協議会との共同による『日本一、美作産の杉、松』の立看板が立てられており注目されていた。

なお当日の感謝状受賞者次の通り。買方 山下木材、矢野木材、中島製材



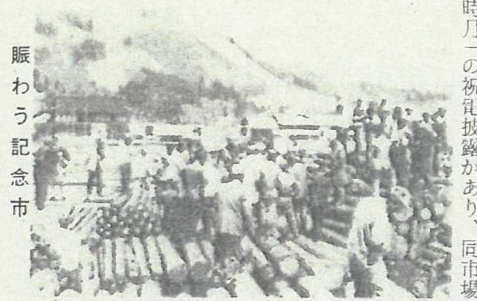
十周年記念式典

後、掘建設、酒井製材所、出荷者 菅原幸一、中川勇、西尾準市、杉本清、磯田豊夫、永年勤続従業員 村上三美、川上時江、横山隆夫、神谷茂、村松正治、村上太郎、平田清、吉永弘志、福原三三、横山治

以上敬称略

⑩創立10周年記念市 (S45.4.21)

式は福島専務の開会の辞で始まり、山下社長から出荷者、買手者をはじめ関係者に対し感謝の言葉がのべられ、「この十周年を一つの節として大いに頑張ろう記念市



賑わう記念市

昭和44年
昭和45年

主な出来事

◆昭和44年
東名高速道路全線開通
◆昭和45年
1月29日 第1回真庭木材出荷組合記念市(写真⑨)
4月21日 創立10周年記念市(写真⑩)

第10期

真庭木材市売総会

八億一千五百万円を扱う 手数料、整理量を改正



山下 社長

真庭木材市売（真庭郡久世町、代表取締役山下忠雄氏）資本金一千五百万円、株主二〇三名の第十期株主総会は四月二十九日十時四十分より、本社会議室において株主三十七名が出席して開催された。

総会は福島県専務の開催の辞に始まり山下社長より「出荷者皆様の絶大なご協力と買方各位の変わらぬご協力により前年を二十四%上回る八億一千五百万円（44年3月～45年2月まで）を売り上げることができ感謝にたえません。今後ともより良い、より正しい木材の流通機関として業界発展のため、全力を傾注してゆく覚悟です。株主各位の変わらぬご指導、ご協力をお願いいたします」とあいさつが行なわれた。

銘建 集成材

中島製材株式会社
岡山県勝山町勝山(086744)2695代

4月29日

た。第一号議案「昭和四十四年度決算承認の件（営業報告書、代借対象表、損益計算書及び剰余金処分案、改選後監査役、監査報告）第二号議案「監査役任期満了につき改選の件（後記）」第三号議案「退職取締役慰労金の件、その他総会を終り同所の、ドライブイン真庭、において懇親会を開催、吉永稔氏（吉永常務の父君）の首頭に折り同市場の一層の発展を祈る乾杯、参加者一同大いに懇談し午後一時過ぎ散会した。

同市場の年間取扱額は、八億一千五百万円（内地材五億三千万円、外材二億八千五百万円）で、配当は年八分。

なお、第九期の取扱額は六億五千万円であった。又同市場では、労働賃金の急速な上昇や、手数料が安いと利益面で今一步の感があり種々検討を重ねていたが、手数料の改正にふみ切ることになり五月より手数料の現行五%を六%にアップ、整理料は百八十円を百三十円にダウン、歩もどしは従来どおり（三十万円出荷毎に千分の一）とする事になった。

同社役員及び監査役は次の通り「敬称略」

代表取締役「山下忠雄、専務取締役「福島卓治、常務取締役「吉永純三郎、取締役「堀弘親、峰政大、二、花谷治政、矢野勝



真庭木材市売の役員

三、小林康男、沼田広秋、林岩男、酒井正、桑木博、鳥越康生、堀久作（鳥越、堀の両氏は監査役から移動）「監査役「牧野俊常任、留任、菅原幸一、川崎文一（新任）」

⑪第10期株主総会 (S45.4.29)

主な出来事

◆昭和45年
4月29日 第10期株主総会（写真⑪）

10月30日 増資（新資本金2、550万円）

日本万国博覧会（大阪）

日航機より号ハインジャック事件

◆昭和46年
7月15日 宅地建物取引業認可不動産業務開始

沖縄返還協定調印

◆昭和47年
4月27日 木材PR特別記念市（写真⑫）

高々とアドバルーン

木材PRをかねた12周年特市



山下 社長

中止、特設会場において記念式典が挙行された。

式は真庭市売吉永常務の司会により福島専務が開会

の言葉をのべ、山下社長から「創立十二周年を記念して開催したこの木材PR特市が、連鎖反応として広く大きく全国各地に反映、木材PR運動が展開されることを期待し、今後とも皆様方のご支援をお願いします」とあいさつが行なわれた。

続いて真庭木材買方、同出荷組合、美作木青会を代表して矢野勝三氏が「本日開催の一つの基盤として

木材PRの輪を広げ、建築材として世界一の材質を誇る内地材の育成のため、山林所有者——出荷者と力を合せて、業界発展のため頑張ろう——と力強いあいさつがあり、来賓を代表して久世町長、勝山町議会議長から祝辞が贈られ、吉永常務が「今後とも公正、厳正な流通機関として懸命に努力します」と閉会の言葉をのべ式典を終了した。



節の良さを見なおそう

- 1 本枝の節は自然のまゝをお楽しみ。
- 2 本枝の節は年輪と同じく、時代をあなたに語りかけます。
- 3 本枝だけのものを、それは年輪と美しい節です。
- 4 新建築にないものをそれは節のまゝです。
- 5 生きた節は結んだ節と大きく違います。
- 6 節こそ本枝だけのものを好みます。



昭和45年
昭和47年

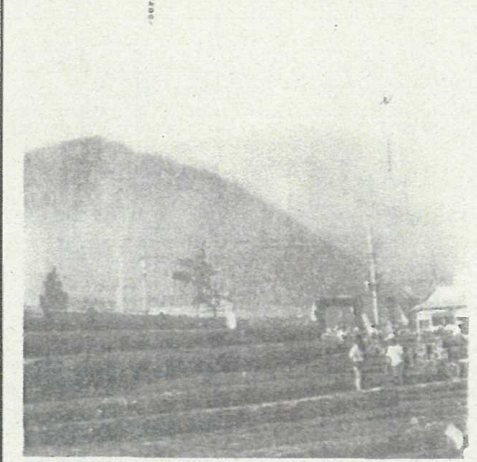
樹齡、立方計算に強いご関心

盛会であった記念市！

藤山高原の自然公園大会にご出席された常陸宮ご夫妻をお迎えして、開催された真庭木材市売場（岡山県真庭郡久世町久世山下忠雄氏）夏季特別市は、八月五日「常陸宮・同妃殿下ご視察記念市」と銘うって、美作産の優良原木約二千立方（松、杉、杉の柱材が主体）を集荷、真庭原木買方組合員や真庭木材出荷組合員など多数が参加して大盛況であった。

真庭木材市売をご視察 常陸宮・同妃殿下

両殿下歓迎と木材PRの
アドバルーンも高々と...



山下 社長

山下社長は記念市を終り次のように語った。「常陸宮・同妃殿下をお迎えした記念市が、盛況でしかも無事終了致すことが出来心から喜んでおります。これも関係の皆様方のご支援の賜と深く感謝する次第です。また、常陸宮殿下には木材に対し強いご関心を示され、華子妃殿下からもお褒めの言葉、お礼の言葉を賜わり感激しております。

殿下は盛勢のよい内地材原木の「せり市」をご参観になりながら山下社長に対し、出品されている原木の樹齡、体積、容積計算方法、取引状態など熱心にご質問になり、原木土場内を御覧になり、九時二十五分ご出発された。

相場は落ちついた感じ、七千万円を売る

記念市は両殿下のご出発のあとも引き続き行なわれ、地元産の天然松長六尺末口五〇センチが立方計当り二十万円で買われたほか、松良材の柱口元木三以十一万五千円、同二番木平均五万四千円、六尺の長柱用材の元木良材が九万七千円、二番木で七万四千円、材で六万三千四百円程度

高値更新の出荷者謝恩特市

急騰を続ける杉・松材

真庭木材市売

真庭木材市売場（岡山県真庭郡久世町久世山下忠雄氏）の出荷者謝恩特市は、十一月十六日月田支店土場、久世本社（第一、第二土場）とで開催、杉・松材を中心として急騰を続け、買方、出荷者双方とも異常な高値の出現に驚異の目をみはっていた。

新、特に杉柱口並材で立方計当り六万三千円から五万四千円、上物では九万四千円、十二万といった相場が見られていた。

買方組合と出荷組合が懇談会

午後一時四十分全量高値で売り切れて（五千万円）終了、同木材市場の食堂において、真庭原木買方組合（矢野勝三組合長）と真庭木材出荷組合（菅原幸一組合長）が合同懇談会を行ない、木材の異常高値の原因や、今後の価格動向、買方組合の問題等につき双方より熱心に意見が出され、司会の真庭木材市売の山下社長から「真庭の基幹産業といわれる木材産業が、より発展し安定した業

当日は月田支店土場のせり市を終了後（千五百万円）折柄の製品暴騰相場を反映して、杉、松柱口は高値を更新（合）（矢野勝三組合長）と真庭木材出荷組合（菅原幸一組合長）が合同懇談会を行ない、木材の異常高値の原因や、今後の価格動向、買方組合の問題等につき双方より熱心に意見が出され、司会の真庭木材市売の山下社長から「真庭の基幹産業といわれる木材産業が、より発展し安定した業



賑わった謝恩市



招待旅行の出荷者

⑭ 出荷者謝恩招待旅行（三朝温泉）（\$47.11.16）



⑮ 月田第2土場落成記念市（\$48.7.30）

⑬ 常陸宮、同妃殿下御視察記念市（\$47.8.5）

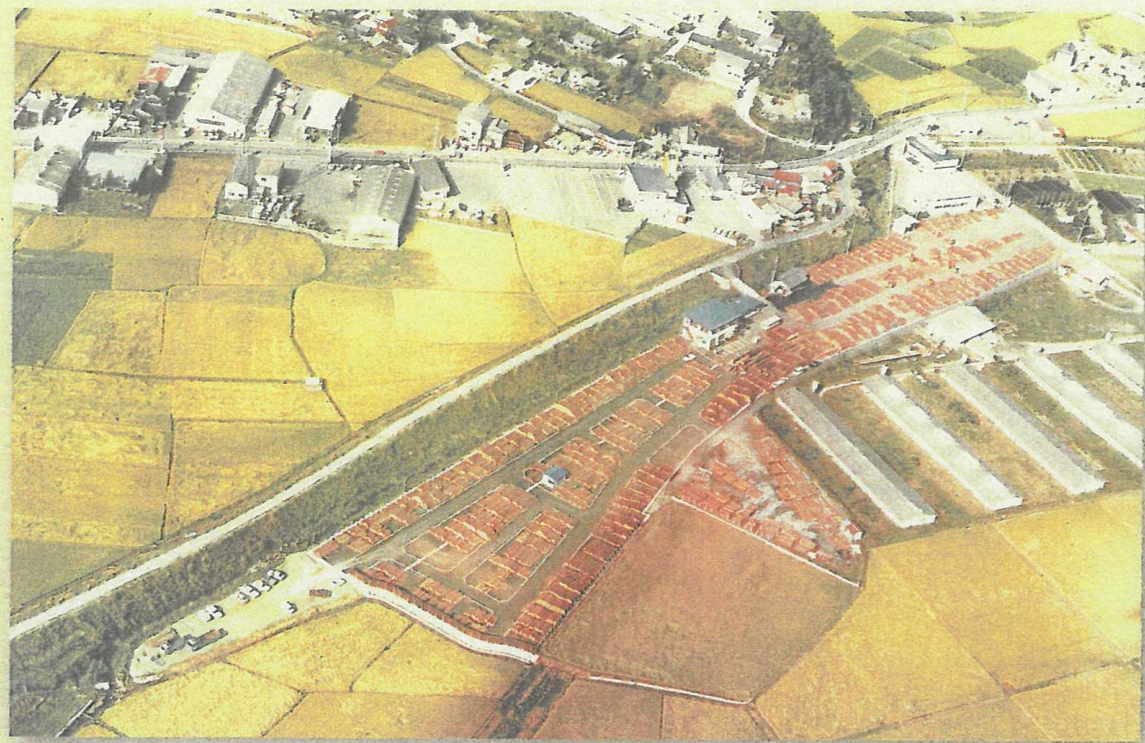
主な出来事

- ◆昭和47年 8月5日 常陸宮、同妃殿下御視察記念市（写真⑬）
- 8月30日 増資（新資本金3,000万円）
- 10月31日 買方謝恩招待旅行（三朝温泉）（写真⑭）
- 11月16日 出荷者謝恩招待旅行（三朝温泉）（写真⑮）
- ◎山下社長南太平洋林業視察（16日間）
- ◎吉永常務アメリカ、カナダ林業視察（9日間）
- 札幌冬期オリンピック開催
- 連合赤軍浅間山荘銃撃戦事件
- 新幹線新大阪ー岡山間開業
- ◆昭和48年 3月15日 増資（新資本金4,800万円）
- 7月30日 月田第2土場落成記念市

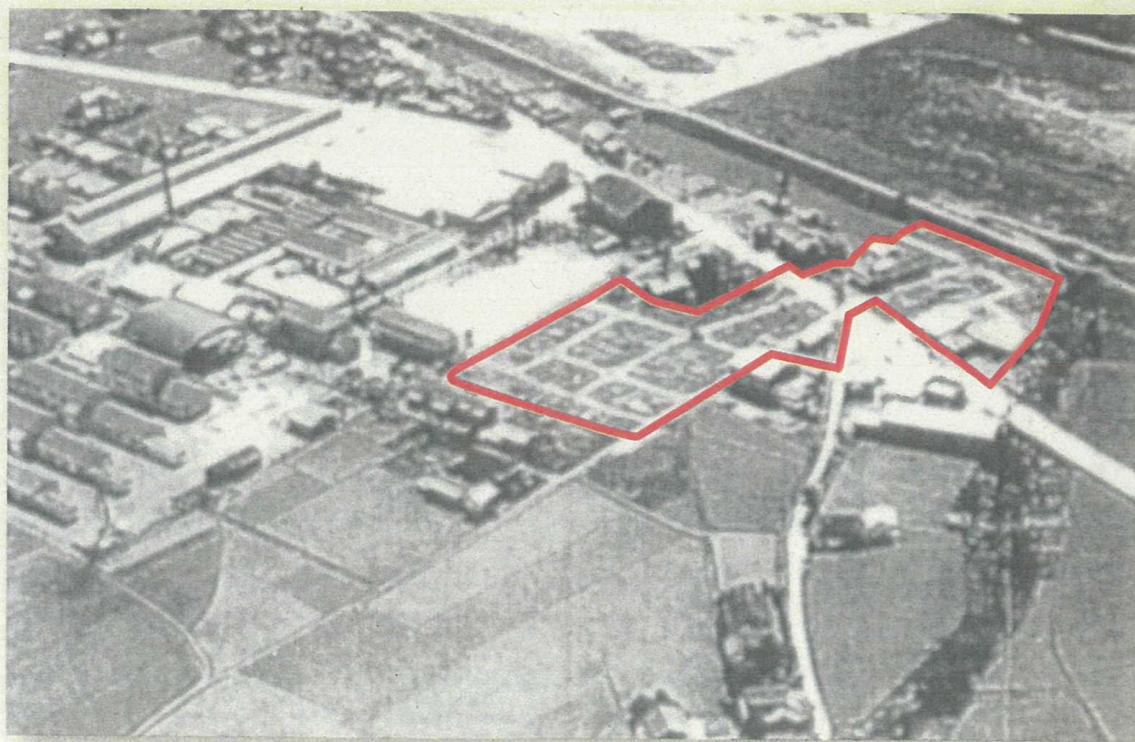
- 念市（写真⑯）
- 変動為替制
- 第一次オイルショック
- ◆昭和49年 2月14日 出荷者、買方決算謝恩旅行（皆生温泉）
- 8月1日 増資（新資本金6,000万円）
- 田中角栄首相退陣
- ◆昭和50年 12月4日 得意先と沖縄海洋博覧会旅行
- 新幹線岡山ー博多間開業
- 中国自動車道落合ー吹田間開通

昭和47年
昭和50年

20

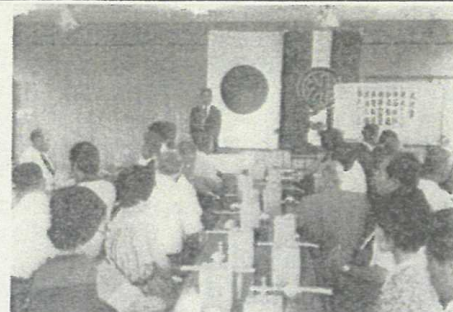


▲新本社全景 (S55.10)

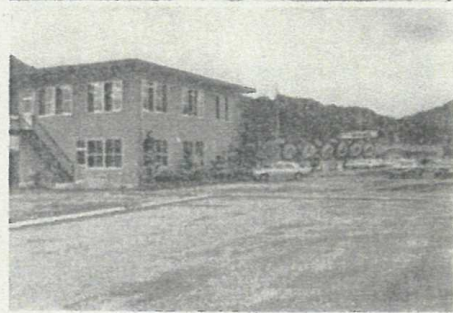


▲移転前本社全景

昭和55年



新工場移転の記念式典



新しい事務所と工場の一部



山下社長

記念式典は吉永常務の司

内地原木の専門市場として充実、発展を続ける真庭木材市売欄（本社岡山県真庭郡久世町、社長山下忠雄氏）は、八月十七日（日）、久世町富尾一ノ五に完成した新社屋で、関係者を招き新工場移転記念式典を挙行政した。

新社屋で記念式典 本社工場は富尾に移転

真庭木材市売欄

会で行進（十一時過ぎより）矢谷専務の開式のことば、山下社長の挨拶に続き、同社長より経過報告があり、各地権者をはじめ関係者に対し感謝の言葉が述べられた。続いて工事を担当した鳥越工業欄（社屋）、竹藤

建設欄（造成）の両社に対し感謝状を贈呈した。感謝状の贈呈を終り来賓の鳥越県木連会長（県議会副議長）、須崎津山宮林署長、久世町長、河本勝山市場社長、中島真庭買方組合長（真庭郡木材組合長）、川崎県北素材協理理事長、地区代表初岡太郎氏等から祝辞があり、真庭製材業の基盤を作り、分業化を促進した功績を称え、「市場開設二十周年と新工場移転を契機に更に一段と発展を期待する」と激励した。

来賓の祝辞を終り中銀守分頭取、山相前田社長等の祝電を披露、同市売の発展を記念して山根真庭森林組合長の音頭で万歳を三唱、堀弘親取締役の閉式の辞で記念式典を終了した。

式典終了後、祝宴に移行、柴田久世町副議長の音頭で乾杯、地元のきれいどころ多数のサービスもあり、出席者一同和やかに歓談した。

概要

▽資本金 八千万円（株主三百三十名）、▽年間取扱高 約四十五億円（七万九千七百

㎡、54年度実績）、▽工場面積 富尾新工場五千百坪、月田支店浜二千三百四十坪、旧本社工場（予備工場）二千九百五十坪、▽新社屋 八十八坪（木造二階建て）、▽休憩所、車庫 各二十一坪、以上。

①9 本社移転（事務所、工場落成）記念式典 (S55.8.17)

主な出来事

◆昭和55年
8月17日 本社
移転（事務所、
工場落成）記念
式典（写真①9）

真庭木材市売で開催

盛況 桧柱材など反発

局長賞や県知事賞を受賞した大径丸太と賑わう即売風景

優良材出品者表彰

正午過ぎからの記念式典は、全市連竹内文三常務理事の挨拶に続き、優良材出品六名（後記）に大阪営林局長賞や岡山県知事賞、多量出荷者十九名に全市連会長等から感謝状が贈られた。

続いて大阪宮林局長（大庭新見署長代読）など多数の来賓が祝辞を述べ、真庭地方の地場産業の柱である木材産業発展のため国産材生産振興に期待すると激励した。

長の閉式の辞で式
、河本勝山市場社
が乾杯、会食のあ
と午後の即売を開
始。大径銘木や優
良丸太の「せり売
り」が盛大に繰り
広げられた。

午後の即売で注
目されたのは、大
阪管林局長長賞の
大径松丸太（13材×
96寸）立方材当た
り七十五万円（示
賞の檜（4材×82
寸）同六十七万円
檜（10材×72寸）
六十五万円、松

(6×34^寸) 四十三万円
大径杉(6^寸×110^寸) 八十八万円(元落)等。国有林材は新見営林署出品の松3^寸×13^寸×16^寸(二番)は六万円から六万五千元、上質材で九万円、同18×20^寸は仲値五万八千元、同11×12^寸四万円、4^寸×16×20^寸で六万円級が多かった。

また、杉丸太は柱口、中目材とも買気が見られ全盤に強保合いで進展、松一般材も強含みで全量を捌いた。午後五時過ぎ、出品材の殆んど全量約二千立方^尺を売り、盛況のうちに全市連の展示即売会を終了した。なお、売上額は一億三千万円強であった。

表彰者―大阪営林局長賞

〔松〕菅原幸一、岡山県知事賞〔櫻〕榎アサヒ架木製作所、久世町長賞〔杉〕半田謙、同〔松〕中部造林、勝山同〔松〕山崎正志、同〔桑〕西田菊男。

全市連会長感謝状〔中島工、川崎文一、全市連中国支部長同〕今石叶、坂口合名会社、真庭郡木材事業協組合長同〔原田繁穂、杉本清、金平博、前田芳春、樋口虎雄、真庭市売社長同〕

大下治郎、長谷川博久、葉広喜一、杉本莊輔、榎入沢林業、金本永鎮、山田義隆、塚本謙市、横木忠一、上本久夫、以上敬称略。

⑳第1回全市連国産材振興促進展示会 (S55.10.9)

真庭木青協が主催

商況は月田市市場、本社土場とも順調に進展、杉、桧とも中級以上の材が強含みで買われ、一般材、小径木等は横ばいで推移した。

午前九時から即売を開始した月田木材市場は、地元材を中心として良質材の出

品が多く、好値で注目されたのは天然桧 $8\text{ 呎} \times 40\text{ 呎}$ 六十万円 (m^3)、同 7 呎 42呎五十四万円など。本土場では杉 $11\text{ 呎} \times 46\text{ 呎}$ が三十万円、松 $2\text{ 呎} \times 58\text{ 呎}$ が五万円、桧は三十万円か三十五万円が最高相場で

主催の真庭木青協土井会長

雨の中、賑わったせり売り風景

材時代に備え、

「二十一世紀末の時代」を自からの手で握りたい」、力強い挨拶が行われた。

三千百万円(二千五十萬)を計上、午後五時すぎ第一回國産材生産促進展示会は所期の目的を達成し盛況裡に終了した。

國產材生產促進展示即売會場

つた。また、杉中目材の出 一口誠
荷は少なめで、尺上材は七、 業部
八万円から十二、三万円級 井会
が多かった。 中で

（真庭木青協事
司会で進行、土
「厳し」時代の
力を結集し各目
長から謝辞があり、堀久作
来賓の祝辞を終り山下社
贈られた。
長の三氏から激励の言葉が
鳥越岡山県木連合
前真庭地振局長、
川野見宮村署長

が自からの力を發揮、産地
間競争に勝ち残る様努力を
続けたい。来たるべき国産

ひっこし専門と
木造建て方のクレーン
木材輸送のトラックは
芝田運輸へ
電話(六三)六二二七(代)

謝辞を述べる山下社長

ナールから開始、一部の指値材を除き杉、桧、松大径材、柱材、中目材などの優良材を順調に売り捌いた。

なお当日の売上額は一億

⑳ 第1回真庭木材青年協議会記念市 (S57.9.23)

主な出来事

昭和55年

10月9日 第1
回全市連 国産
材振興促進展示
会（写真②⑩）

ソ連アフガニスタン侵攻、日本モスクワ五輪不参加

◆昭和57年
9月23日 第1
回真庭木材青年
協議会記念市
(写真②)

12月 ◎山下忠雄社長 久世町議会議長就任

冲墜落事故

◆昭和58年
中国自動車道下
関迄全線開通

◆昭和59年
ダリコ、森永か
い人二十一面相
事件

◆昭和60年
12月 自動原木
仕分機設置

日航ジャンボ機
御巢鷹山に墜落

五二〇人死亡
(四人生存)
電電公社、專売
公社民営化

昭和61年

4月 雄社長 久世町
◎山下忠
議会議員勇退
伊豆大島、三原
山噴火

◆昭和62年
国鉄解体、J R
発足

◆昭和63年
2月 月田支店
事務所・休憩所
・車庫新築

12月 オフィス
コンピュータ導
入

新岡山空港開港
瀬戸大橋開通

◆平成元年
消費税スタート
(3%)

祝 創立30周年

会社モットー 信頼、情熱、誠意、奉仕

国産材原木専門 一市売日 毎週木曜日

真庭木材市売株式会社

代表取締役社長 山下 忠雄 取締役社長代行 矢野 勝三
専務取締役 吉永 純三郎 常務取締役 山下 薫 月田 富雄 取締役 堀 弘毅
取締役 月田 富雄 大倉 好夫 取締役 久世 隆太郎 小山 正男
取締役 堀 久作 取締役 菅原 幸一 取締役 磯田 豊夫 取締役 林 岩男
取締役 鳥越 康生 取締役 山下 順次 取締役 小林 淳一 取締役 塚本 謙市
監査役 牧野 俊 監査役 瀬尾 太郎 監査役 服部 智 顧問 川崎 文一
顧問 長尾 善平 顧問 大下 治郎 顧問 中島 敏成 顧問 山崎 文一
顧問 杉本 清 顧問 金平 博 顧問 藤田 太郎 顧問 原田 繁徳
顧問 向井 秀明 顧問 桑木 博 顧問 草田 三三 顧問 山田 義隆

本社 岡山県真庭郡久世町富尾1番地 TEL(0867)42-0602 FAX(0867)42-2800
月田 岡山県真庭郡勝山町月田駅前 TEL(0867)44-3181 FAX(0867)44-3518

盛大に式典と祝賀会

創立30周年の記念行事 労働者育成基金に寄付

真庭木材市売KK

国産材の原木市場として昭和三十
五年三月、真庭木材業界の青年有志
により設立された真庭木材市売(株)
(岡山県真庭郡久世町富尾、山下 忠雄
社長)は、その役割を果たしながら幾
多の試練を乗り越え、輝かしい創立
三十周年を迎え、来賓、関係者を多
数招き盛大に記念式典と祝賀会が開
かれた。

式典で新役員を紹介

賑わった祝賀会々場

四月九日午前十一時、慶
幸殿で開かれた記念式典は
矢野取締役の司会で進行、
牧野監査役開会の挨拶、新
役員紹介(吉永専務取締役
役挨拶)に続き山下社長
が、創立以来の三十年を振
り返りながら感謝の言葉を
述べ、「林業労働者不足な
ど深刻な問題を抱える中
で、市場の使命と
責任を十分に考え
ながら四十周年、
五十周年に向け皆
さんと一緒になっ
て、設立当時の初
心に返り難局を乗
り切りたい」と挨拶。
関係地主や創立
当時の金融関係
者などに記念品と
感謝状を贈呈、永
年勤続従業員(17
年~30年)を表彰
した。

続いて記念事業

二千六百m³を集荷

真庭木材市売「30周年」記念市



山下 社長

五月十日に行われた真庭木材市売(岡山県真庭
郡久世町富尾、勝山町月田、山下 忠雄社長)の創立
三十周年記念特別市は、優良松杉を主体に約二千六
百m³を出品、広範囲から
参加した買方多数で賑わ
った。売上げは二千五百
七十二m³、一億五千四百
五十七万円と充実した内
容となった。また、式典
で高額出荷、同買方二十
五社の表彰が行われた。



月田土場(杉)のせり売りと久世土場(松)のせり売り

商況は月田土場の杉松
一般材はやや弱含みの感じ
でスタートしたが、良質材
の多い土場に移動してか
らは買気も強まり「順調」
に買い進まれた。
松杉一般材の指標となる
14~16cm二番玉は、松3m
が五万八千円、同6m九万
八千円、杉3m二万八千円
など。良質材では松6m×
38cm五十万円、同30cm四十
一万円や、二十万~三十万
円台もかなり見られたが、
時期的な関係で同市場の冬
季の特別市に比べ、高級材
は若干少なめだった。
また、杉40cm上の大径材
では十萬~二十五万円が多
く、最高は四十八万円。

若手会団に 奨励金贈る

月田市場終了
後、本社二階で行
われた記念式典
は、山下社長が「
雨の多い悪天候下
での出荷協力、多
数の買方参加を心
から感謝してい
る。創立三十周年
を節目としてこれ
からも一生懸命に
頑張りたい。皆様
のご支援を受けな

がら四十周年、五十周年に
向けて今後も努力を続けた
い」と挨拶。高額買方十一
社、同出荷者十四社に感謝
状と記念品を贈呈。岡山県
北部木材生産協同組合と真
庭原木買方組合に謝礼金と
して、また美作木青会と真
庭木青協に活動奨励金とし
て金一封を贈呈した。
続いて大下県北部木材協
理理事長が祝辞を贈り、野村
真庭原木買方組合長の音頭
で乾杯、昼食のあと本社土
場で午後の即売を行った。

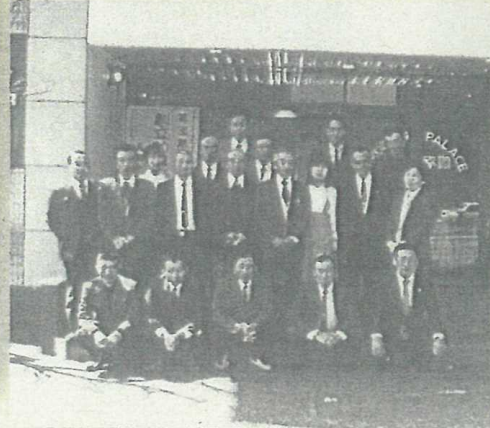
◆平成2年
4月9日 第30
期株主総会及び
創立30周年記念
行事(写真②)

主な出来事

東西ドイツ統一

第30期定時株主総会

真庭木材市売株式会社



② 第30期株主総会及び創立30周年記念行事 (H2.4.9)

岡山県北の8木材市場

3月から取引自由化

近く調印 収入増で生産者確保

国内有数の木材産地である岡山県北の8つの木材市場は三月から、地元が生産者組合と仲買組合に限定していた取引参加者の制限を撤廃、全面的に開放する方針を決めた。木を切り出す木材生産者の組合、買手の製材業者で組織する仲買組合と八市場の三者は近く、市場自由化の取り決めに調印する予定。市場原理の導入で取引を活性化し、高齢化の進む木材生産者の収入増につなげる原木の安定供給を図る狙い。県北部には有力製材業者が集まるが、他県業者の参入に道が開けたことで業者間の競争が激しくなりそうだ。

原木の安定供給も

今回の自由化はこれまで地元に限っていた買手の方を、全国の仲買組合に加盟する製材業者、業者に開放する内容。撤廃する

のは津山総合木材市場、津山木材市場、勝山木材市場、真庭木材市場、新見木材市場、岡山県森林組合連合会の津山、勝山、新見の三共販所。津山森林生産

協同組合などに加盟する約百五十の木材生産業者と、津山木材仲買協同組合などに加盟し一部鳥取県の業者を含む約百の製材業者が、月四回の取引自由化について、すでに基本合意に達している。

津山市を中心とする岡山県北部は製材業が盛況で、木材市場は需要超過状態にある。このため県外業者の参加がなくても取引は成立し、地元の仲買組合だけが参加。十年ほど前から月四回の市場取引のうち二回を「特

別市」と名付け、県外業者の参加を認めていた。しかし「二十一世紀に木材生産者は半減する(市場関係者)」ともいわれる高齢化の進展や後継者不足などから、生産者の間で市場取引を完全開放し価格形成に全国の業者の意思を反映させるよう求める要望が強まっていた。県外資本の参加で、より高値で販売し収入を上げ、山林業者の減少に歯止めをかけようという狙いだ。

製材業者側も木材生産者の減少は今後の安定供給を妨げると判断、市場開放に応じることにした。今後、価格競争の激化が予想されるが、「県北部には有力製材業者が多く、大きな影響は受けない」との指摘もある。

②4

主な出来事

◆平成3年
7月27日 月田
第3土場落成記念
納涼大会(写真②)

ソビエト連邦崩壊

◆平成4年
中国横断道米子
落合間開通

◆平成5年
3月4日 市売
日月3回に変更
(原則4の日)

皇太子・雅子妃
ご結婚

◆平成6年
1月14日 第1
回真庭原木買方
組合記念市(写真⑤)

9月10日 月田
開設30周年記念
「感謝の夕べ」
(写真⑥)

並材中心に堅調相場

国産材需要拡大展示即売会 真庭原木買方組合主催で開く

真庭原木買方組合(小林淳一組合長)主催による「第一回国産材需要拡大展示即売会」は、一月十四日、共催の真庭木材市売場(山下忠雄社長)で開催。優良桧杉材(一部松材)を主体に約三千㎡と量的に出品。多数の買手が参加して賑わい、売上金額一億六千五百六十七万円と好成績を収めた。

出荷者の努力により多量 他市場で柱口並材が堅調相
出品となった同即売会は、場
場であつた同即売会は、場
場であつた同即売会は、場



賑わう月田市場のせり売り

映。出荷内容も良かったこと
一般材中目を除いて、総じて
調に進展。特に杉3m柱口、
柱口、同13cmは強含み気配で
み気配で推移した。指標となる
の中値は、桧6m×14、16cm
八万八千円、同3m五万三千、
五万五千円、同3m五万五千
円、杉3m同三万二千五百、
同4m中目二万二千

主な好値材は、桧7m×34cm
四十万円、同6m×16cm
三十六万円、他に4m中目、
尺上で二十五万、三十五万
円クラス多数。杉6m×42cm
二十四万円、松4m×64cm
三十四万円、同6m×52cm
五十万円、同6m×44cm
三十五万円など。

小林組合長が挨拶

なお、当日は開市に先立ち、
月田第三土場で主催者を代表
して小林組合長が関係方面に
対し感謝の言葉を述べ、「今日
の即売会を機に出荷者、市場、
メーカーが一致協力、国産材
需要拡大により積極的に取り組
んで欲しい」と挨拶。引き続
き、即売が行われた。

②5 第1回真庭原木買方組合記念市 (H6.1.14)



②3 月田第3土場落成記念納涼大会 (H3.7.27)



②6 月田開設30周年記念「感謝の夕べ」 (H6.9.10)

月田開設三十周年記念市

岡山県木協連主催展示即売
真庭木材市売が共催

以上敬称略。

平成6年
平成7年

山下忠雄氏 勲五等瑞宝章 「受章記念祝賀会」

多数が出席して祝福

今春の叙勲で勲五等瑞宝章を授与された山下忠雄氏（岡山県木連副会長、真庭地区木材組合理事長、真庭木材市売代表取締役）の受章祝賀会が五月二十七日、真庭リバーサイドホテルで開かれ、多数の来賓をはじめ、関係業界代表、取引先、友人、親族など県内外から百八十余名が出席。山下氏の長年にわたる功績を称え、共に栄えある受章の喜びを分かちあった。



多数が参加した祝賀会



喜びの山下忠雄氏と多喜子夫人

午後三時三十分からの祝賀会は、井原真庭地区木専長が開会のことばの中で、作地区を国内屈指の国産材

産地に育成した功績に触れながら「山下氏が会長を務める山下木材の法人設立五十周年、社長を務める真庭木材市売の創立四十周年、結婚五十周年という節目の年に受章された事は山下夫妻にとって最良の日」と述べると共に多喜子夫人の内助の功を称えた。

来賓を代表して平沼衆議院議員、片山、加藤参議院議員、本田副知事、井手県議、岡山県木協連会長（業界代表）、中島県木連前会長（友人代表）が山下家との係わりや山下氏の活躍ぶりなどエピソードを交えながら祝辞を述べ、「これからはあふれる情熱と行動力で木材、林産業発展のために活躍される事を祈念する」と激励。

▼山下忠雄氏略歴 大正15年1月生まれ、昭和20年5月防府海軍通信学校卒、21年7月山下木材輸入社、48年11月代表取締役（現会長）、35年3月真庭木材市売代表取締役（現職）、43年4月久世町議会議員、

57年12月同議長。また、久世商工会、真庭郡木材事業協、林業労働災害防止協会岡山支部の理事をはじめ、久世木材協理理事、真庭法人会会長、ライオンズクラブ国際協会三三六地区ガバナなどの要職を歴任。現在も岡山県労働基準協会常務理事、真庭地区木材組合理事長、岡山県木材組合連合会副会長、ライオンズクラブ名誉顧問、真庭郡税務団体協議会長としても活躍中。

山下忠雄社長 勲五等瑞宝章受賞記念祝賀会 (H12.5.27)

主な出来事

- ◆平成12年 5月27日 ◎山下忠雄社長 勲五等瑞宝章受賞記念祝賀会（写真②）
- ダイオキシン類対策特別措置法制定・施行
- ◆平成13年 4月30日 山下真代表取締役社長就任
- 対米同時多発テロ事件
- ◆平成14年 学校完全週五日制開始
- ◆平成15年 イラク戦争勃発
- ◆平成16年 10月10日 台風23号により車庫、倉庫、原木仕分機及び山林被害発生
- 台風二十三号被害甚大
- ◆平成17年 九ヶ町村合併し真庭市誕生
- ◆平成18年 しまなみ海道全面開通
- ◆平成19年 7月4日 第1回真庭地区木材組合特別市（写真③）

出材減でこじつかり

真庭地区木主催市 真庭木材市売で

真庭地区木材組合（向井秀明理事長）主催による素材の「特別記念市」は、四日、共催の真庭木材市売（山下真社長）で開催。当日は約千九百mを集荷、売上金額は二千八百四十六万円（千八百七十五m、平均単価一万五千円）を計上した。



雨の中行われたせり売り

一般材の商況は、雨天 っているとして製品市況続きで出材減が鮮明になは活況感に欠けているものの、桧は前月上旬比で五百千円高。杉は下級材が同五百円程度居所を下げたが、概ね保合いで進展した。指標材の二番玉直材の中値（前年同期比）は、桧6m×18cm 20cm三万五千円（三千円安）、同14×16cm三万六千円（三千円安）、同4m二万六千円（同4m二

③ 第1回真庭地区木材組合特別市 (H19.7.4)

万六千円（変わらず）、同3m×18cm 20cm二万四千円（三千五百円安）、同14×16cm二万四千五百円（三千五百円安）。杉4m×22cm上一万二千円（二千円高）、同18×20cm（二千円高）、同18×20cm一万五千円（五百円高）、同3m×22cm上一万二千円（二千円高）、同18×20cm一万二千円（二千円高）。良材関係は時期的に少なめで、桧では4m×32cm十万円、6m×16cm 18cm九万円など。杉では4m尺上元木で二万円前後の材多く、5m×46cm二万六千円が高値。なお当日は、開市に先だち向井理事長が買方、出荷者に対し感謝の言葉を述べ、「国産材は今転換期を迎えているが、安定供給の確立に向けて努力したい」と挨拶。山下真庭木材市売社長が重ねて協力を要請したあと、即売に移行した。

追悼 山下忠雄氏が死去 卓越した識見と行動力

真庭の山河は美しいか



真庭木材市売場会長で、山下木材(株)相談役の山下忠雄(ゆまた)さん(1925年11月25日)が12月8日、82歳で死去した。氏は卓越した識見と行動力、そして有名で、市内の高速料金を半額にすれば倍の市民が利用する」として、高速料金半額の陳情書をしたためて、送先の病院で、親族、役員に「パンクラッシュでは猛烈なサイクロンが発生し、大量の木が倒れた。すぐにチェーンソーを送る段取りをせよ」と話していた。役員が調べたところ、現地には給油所がないとわかって、「チェーンソーを送っても宝の持ちぐされになる。金を送ったのではダメか」と会長に話したら「そんな金を送るぐらい赤子でもできる。不幸な災害として、真庭の木材屋は

とんでもない物を送ってきたと言われよう。でなさいいけい」と叱られたという。役員で協議した結果、手ノコを送ることになったという。

こうしたエピソードは枚挙にいとまがない。本紙の紙面から「山下語録」をいくつか紹介したい。

七十歳から韓国語を学び、中国語講座の受講生でもあった。来春には中国へ行くのを楽しみにしていた。

「戦時中、日本は韓国、中国を植民地にしていました。これから日韓、日中友好は一人でも多くの人が隣国の言語を習うことです。

私のような年寄りでも

やっていると「自分のことだけ考えている」だとおっしゃる。少くも社会のお役に立つよう努力すべきです。最後はエンマ大王が見分けるんですから(笑)。(平成十二年春、勲五等瑞宝章受章の弁)

「わが社の使命は山を守っていくことだ。林業の活性化に向けて、自分たちの責任で守っていくなければならぬ」(四十一年の荒波を乗り越え、今日を迎えることができたのも、関係各位のご指導とご協力の賜物。平素お世話になり、ご迷惑をおかけしている関係各

面に感謝とお礼を申し上げます)と述べ、久世・勝山両町と関係各位に金一封を贈呈。

(真庭木材市売場創立四十周年のあいさつ)

「長官の手元では施業計画ができています。現実とは違いますが、民有林も含め、今や山は荒れ放題。このままでは日本の国土(森林)はダメになってしまう。洪水と洪水で日本列島が災害におそわれる前に、自衛隊を出してでも緊急間伐を実施されるよう、ぜひお願いしたい」(平成十年十二月一日、山本林野庁長官に直談判。翌十一年には予算化が成り、十二年四月から「緊急間伐五カ年計画」がスタートした)

「真庭の山々は緑に覆われているが、実は荒れ放題の山を放置したから、十年後には旭川は濁れてしまう。研究はもういい。冥土のみやげにしたいから(ハイオマス産業を)早くや

れ」(平成十五年二月に開催された「真庭タイムス」での発言)

山下会長が亡くなる前夜、死の十時間前に詠んだ辞世の句を紹介したい。

「あきらめの心でながめる秋の空」「紅葉の空美しくありがたい」「わずらって一しお深まる感謝心」

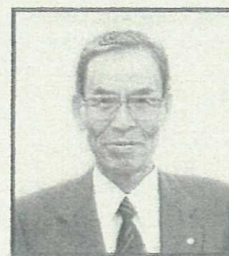
「秋」と「紅葉の」文字は朱書されている。句の下に生まれた兵庫県赤松郡山崎町のわが家と背景の山々の紅葉を赤と黒のペンでスケッチしている。生まれ育ったふるさとの山河に帰ったというところだろうか。

山下会長、長い間、お疲れさまでした。会長の生涯は「美しい真庭の山河」を問いつけた生涯でした。今後は黄泉の国から真庭の山河を見守ってください。

合掌

おくやみ

山下忠雄氏



真庭木材市売場会長山下忠雄氏は、病氣療養中のところ十一月二十五日午前五時七分、八十二歳で永眠された。

告別式(喪主山下豊氏)は、二十九日午前十時より真庭市西河内JAまにわ「やすらぎホール落合」で真庭木材市売、山下木材、山下家の合同葬とし

合掌

社員旅行 (通算46回)



S48年6月4日

役員旅行 (通算12回)



H12年9月15日

主な出来事

◆平成19年 11月29日 ◎山下忠雄会長告別式(写真③4・③7)

米サブプライムローン問題で世界同時株安

参院選民主党が圧勝、第一党に

◆平成20年 リーマンショックで世界金融市場大混乱

◆平成21年 衆院選民主党が三〇八議席獲得、第一党に

住宅瑕疵担保履行法全面施行

◆平成22年 4月3日 創立50周年記念市(写真・53頁)

4月17日 第50期株主総会及び創立50周年記念祝賀会

年度別取扱高一覧表

